

2/25 (土) 13:00—『5年後の飯舘村調査』

林剛平(映倫社)

原発事故調査の際に見る、東北各地での景色や食文化、手仕事の記録を始める。津波、地震、原発事故によってもたらされたものを地元の方がどうするか、人それぞれ。福島県大玉村で藍、「ほんとうの空」色、音色の共感から、藍の栽培・染色を通じ震災後の里山を探求する映倫社を起し上げる。2016年よりわすれん！に参加。

鈴尾啓太(映像編集者)

映画『FAKE』『螺旋銀河』やテレビドキュメンタリーなどの映像編集を担当。監督として制作した『沿岸部の風景』が「わすれん！DVD」として公開されているほか、山形国際ドキュメンタリー映画祭の東日本大震災をテーマとしたプログラム「ともにある Cinema with Us 2013」にも選出されている。2011年よりわすれん！に参加。

2/26 (日) 13:30—『石と人』

佐藤徳政(FIVED)

生まれ育った岩手県陸前高田市森の前地区を中心に、伝統や文化を守り、伝承し、そして新たな伝説を創出し、伝記、伝播し続けている。代表を務めるクリエイティブ集団FIVEDは、創造の聖地構築を志す。2016年よりわすれん！に参加し、同年11月には「巨石装置『五本松』」展を開催。

瀬尾夏美(画家・作家)

土地の人びとのことばと風景の記録を考えながら、文章や絵をつくっている。2012年より映像作家の小森はるかとともに岩手県陸前高田市に拠点を移す。地元写真館に勤務しながら、制作を続ける。2015年からは仙台を拠点とし、土地との協働を通じた記録活動を行う一般社団法人NOOKを立ち上げる。2011年よりわすれん！に参加。

2/26 (日) 17:00—『この町から問いかけて』+『3.11オモイデツアー(荒浜編)』+『HOPE FOR project 2015』

佐竹真紀子(アーティスト)

荒浜に旧深沼停留所を模した偽バス停を設置し、その過程を記録した『この町から問いかけて』を制作。その後も荒浜で制作を続け、現在は10箇所に偽バス停を設置している。2016年12月には3.11オモイデツアーと共同で、深沼線のバス運行ルートを復活させるプロジェクト「きょうは市バスに乗って、荒浜へ。」を実施。2016年よりわすれん！に参加。

佐藤正実(3.11オモイデアーカイブ)

NPO法人20世紀アーカイブ仙台 副理事長として大正・昭和の先人たちが残した写真などの地域資料を収集・保存。震災以後は市民が撮影した写真を募り、展示や記録集発刊、語る場づくりなど震災アーカイブの利活用を模索。2013年より仙台市との協働で「3.11オモイデツアー」を実施。2011年よりわすれん！に参加。

高山智行(HOPE FOR project)

荒浜小学校、七郷中学校の卒業生を中心とする「HOPE FOR project」を立ち上げ、2012年以降、毎年3月11日に荒浜小学校から花の種を入れた風船を飛ばす追悼企画を実施。また、お盆にはスケートボードパーク「CDP」とともに音楽ライブなども開催。2014年よりわすれん！に参加し、これらの記録映像をウェブ公開している。

※出演者は変更になる場合がございます。

2/25 (土)

- 山形 10:00 小国春熊 2016 (124分)
- 福島 13:00 5年後の飯舘村調査 (30分)  
トーク 林剛平×鈴尾啓太
- 14:30 福島県立相馬高校放送局制作 音声ドキュメント  
緊急時避難準備不要区域より/Blind/Atomic town (各7分)
- 15:20 村に住む人々 (48分)
- 北海道 16:25 広域避難者の今を考える (42分)
- 岩手 17:20 沿岸部の風景—岩手県大槌町・陸前高田市— (28分)
- 18:10 波のした、土のうえ (68分)

2/26 (日)

- 名取 10:00 仮設でカラオケ仮装大会「みんなで歌うっべ！」 (15分)
- 10:30 さぐば (120分)
- 岩手 13:30 石と人 (19分)  
トーク 佐藤徳政×瀬尾夏美
- 石巻 14:50 石巻災害ボランティアセンタースタッフインタビュー (35分)
- 15:25 中屋敷 (21分)
- 蒲生 16:05 車載映像 宮城野区蒲生 2013.6.25 (9分)
- 16:14 3.11オモイデツアー  
3.11以前のまちと人に出会うたび(蒲生編) (30分)
- 荒浜 17:00 この町から問いかけて (20分)
- 17:20 3.11オモイデツアー  
3.11以前のまちと人に出会うたび(荒浜編) (30分)
- 17:50 HOPE FOR project 2015 (9分)  
トーク 佐竹真紀子×佐藤正実×高山智行

の地名は映像の撮影地またはテーマとなっている地域を表します。

3がつ11にちをわすれないためにセンター

せんだいメディアテークが、市民、専門家、アーティストと協働し、震災とその復旧・復興のプロセスを独自に記録・発信していくため、2011年5月3日に始めたプラットフォームです。参加者は、個人個人が体験した震災を映像、写真、音声、テキストで記録します。それらの記録は、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として整理・保存され、さまざまな形で利活用されています。http://recorder311.smt.jp

主催・問い合わせ

3がつ11にちをわすれないためにセンター  
(せんだいメディアテーク)

T980-0821 仙台市青葉区春日町2-1  
tel 022-713-4483 fax 022-713-4482  
mail office@smt.city.sendai.jp



この用紙はリサイクルできます。

星空と路 上映室\*

3月11日の星空から6年が過ぎようとしています。「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の参加者は、ビデオカメラなどの技術や経験の有無にかかわらず、震災にまつわる様々なことがらを記録してきました。そこには、震災による被害の状況、変わりゆく地域の姿だけでなく、参加者一人ひとりの想いや言葉が映し出されています。個々のまなざしによって記録された映像を通じ、また、震災という事象をとらえ、残そうとする人びとの軌跡を通して、これまでの道のりを振り返る時間を過ごすことができればと思います。

2017年  
2/25 (土) 26 (日) 入場無料 申込不要 出入自由  
せんだいメディアテーク 7F スタジオシアター